

◆登戸研究所で人には伝えられない仕事をさせられていた人々の記録がよく分かりました。展示されていた風船爆弾の模型は人型との比較がされていてその大きさに驚かされました。生物兵器の研究を行っていた第二科に属していた研究員の方が「初めは動物実験にも抵抗があったがそのうち慣れて趣味になっていった」というお話を恐怖を感じました。この方だけでなく他の仕事をしている女学生や研究員の方々も自分たちがしていることに違和感さえ覚えずお国のためにと誇りに感じていると知り、また恐ろしくなりました。軍の関係者にも関わらずガタイが良かったり武道に精通していたりという訳でもなく生粋の研究者、民間企業、大学教授であったと聞き、時代が異なればこんなことに手を染める必要は無かったのだろうと思いました。この登戸研究所について立地や歴史から違和感を覚え、フィールドワークや聞き込みを行った当時の高校生たちは行動力があり、本当にすごいと思いました。私たちもこの高校生ほどとはいかなくても、この悲惨な戦争の歴史を次の代へと伝えていかなければいけないと思いました。

◆表向き戦争については様々な事を学校などで習ってきたが、秘密戦については秘密というだけあって全く知らないことばかりで興味深く感じました。親子でも仕事内容を知らないなど、管理が徹底された中であんなに多くの資料が残っていたのは驚きでした。また、秘密戦の資料がこんな堂々と残っているのは平気なのかなとも思いました。(以下、顧問のコメント。これらの不都合な資料が隠される時がきたら…戦争始まる、なのかも?)

◆授業で731部隊や風船爆弾の話聞いて興味があったのでどの展示もとても興味深かったです。個人的に印象に残ったのは工場で働きに出ていた人が、自分が何をしているのかわかっていないことが驚きでした。「お国のため」「天皇のため」という考えのもとに働いていたと思っていたので、そういう人もいたけれど自分が一体何をしているのか、戦争に加担していることを知らずに何年もの時間を費やしていた事を知ってとても驚きでした。動物慰霊碑など当時の人たちの心境を伺えるものが多く心が苦しくなりました。それでも写真や話で伝えてきてくれた人がいるおかげで自分たちが今戦争について学べているので自分たちも将来に伝えていけるようにしたいです。

◆(昨年、東京大空襲FWに参加してくれた2年生)同好会の皆さん気さくで、すごい助かりました！私は前回の空襲の話に続き、今回の研究所だったので、戦争についてまた詳しくなれた気がしてます。また、機会があればよろしくお願いします！

◆(初参加の1年生)楽しかったです。暗室にも見えなかったから、あそこで仕事してるのすごいと思った。偽札の精度が高くて感動した。答えが知りたかった。風船爆弾が一発打ったのに1000発しかつかなくて6人しか殺せなかったのはかわいそうだった。Tさんがタイピング燃やすのかわいそうだと思った。人体実験の人で趣味になったって言ってたのを聞いて、慣れることと人は怖いと思った。もうちょっと社会について学びたいと思った。それで勉強してからいろんなところに行きたいと思った。先輩の人も優しく楽しかったしまた行きたいです。(以下、顧問のコメント。殺された6人は、妊婦含む民間人で、ピクニック中だったそうで、「オレゴンの悲劇」と呼ばれるそうです。想定外の「敵」を殺害していたことを知って、戦後ショックを受けた、もと女学生も多いそうです)

キャンパス内には、資料館の他にも、「弥心神社」(知恵の神を祀る)や「動物慰霊碑」(高さは3m。実験動物のためのものとしては異例の大きさ)、倉庫跡(薬品庫?湿気と虫とで、みんな落ち着き無く見学しました…)、消火栓(五芒星☆=陸軍)など、戦時中を感じられる史跡多数。

